

夜風に吹かれて・・・

こんにちは！サーマルタンクの新洋技研です。いやあ～今年の夏もあっちゃかったですね！（新潟弁？） 岐阜や埼玉で40℃を超える気温になったことは記憶に新しいところですが、四季のはっきりしていた日本が今や寒いか暑いかの二極、しかも亜熱帯気候ではないかと思わせるような短時間で局地的な大雨。都市部ではヒートアイランド現象を食い止めようと、ビルの屋上緑化などが進められておりますが、快適さを覚えてしまった人間と自然との調和がどこまでできるのか、難しい問題だなあと感じております・・・ とまあ評論家めいた話はこれくらいにして・・・

8月の終わりに京都へ行った折、伏見のお蔵元（JC酒類部会の先輩）より「期間限定で京都市内で伏見の蔵元のお酒が楽しめる場所があるよ」と教えていただき、その夜さっそく出かけてきました。地下鉄「烏丸御池」駅から程近い「新風館」3階のオープンスペースに、「α Sake Bar」という名称で、洒落たテラス風のしつらえでした。お酒は伏見の清酒19銘柄がショット売りされ、料理は新風館内に出展している各店舗の



「日本酒に合う料理」がメニューに紹介され、注文すると各店舗より提供される仕組みです。

会社帰りの数人の男性客、女性二人連れ、カップル、年齢層も幅広く気軽に日本酒を楽しみ、会話も弾んでいるようでした。また気に入ったお酒があれば、この建物の向かいにあるお店で購入できるという紹介もしていました。この企画は今年で3年目になるとのこと。オープンスペースを利用しているため残念ながら雨天は開店できませんが、夏のひとときを夜風に吹かれながら冷たい日本酒を飲むのもまたオシャレだなあ～と思いつつ、ほろ酔い加減で店を後にしたのでした。今後も更に様々な工夫をされて、もっと沢山の人がお酒を知っていただき、料理と共に楽しんでもらえるように願っております。また各県、地域でも様々な工夫をされて日本酒の普及に力を注いでおられる皆様も、色んな発想で日本酒ファンを開拓してください！

今宵も・・・日本酒で乾杯！

しかしこの雰囲気、一人で楽しむのもいいけど・・・やっぱり女性一人は少々好奇の目にさらされたような気が・・・ 誰か、さそえば良かった！！



Sake Bar オリジナルメニューと提供されたお酒

梅干作りにも日本酒が活躍

日本酒スプレーで梅のつやがよくなります。

かびを防いでくれるので安心です。

梅を土用干しにするとき、日本酒をきりふきでスプレーしました。日本酒のアルコールがかびを防いでくれるので、塩分は少なめでも大丈夫でした。

海賊になりたかった

エッセイ

生産資材主任 島貫 修一

子供の頃、宝探しの物語「宝島」と「黄金虫」や、キャプテン・キッドとキャプテン・ドレイクの活躍を書いた本を読んでは想像を膨らませていた。カリブ海ってどんな海？ラム酒ってどんな味？海賊の本拠地のトルテューガ島ってどこにあるの？そんな夢を映像にしてくれたのが「パイレーツ・オブ・カリビアン」。髑髏の旗を翻して大海原を進む帆船と、財宝と冒険に命を賭ける男達。そして見るからに海賊らしい服装の主人公ジャック・スパロウと、帽子・刀・銃・大砲に掟にラム酒といった小道具や、船上で飛び交う帆船の操船・艀装用語と船乗りのスラングが、見る者を海賊の世界に引っ張りこんでくれる。でもこの映画が言いたいのは海賊暮らしの外観ではない。無人島にエリザベスと二人で置き去りにされたジャックが、「行きたい所があればどこにでも行く、それが船だ」「船は船体や帆や甲板だけではない、The Black Pearl（彼の船）は自由だ」と言っている。敵役の英国海軍の堅苦しさに対して、何者にも束縛されない自由気ままな生き方こそが海賊の本質なのだ。そしてラストシーンで彼が舵輪を握りながら言った言葉「Now, bring me that horizon: 俺を水平線まで連れて行け」水平線の向こうには何があるのだろうか。それは自由と希望に違いない。やっぱり海賊になりたかった。



日本の野鳥シリーズ

技術営業部 佐藤 弘

住宅難のシジュウカラ

北海道の子供達は本種を頬白と呼ぶそう。ちなみに手元の香港の図鑑を開くと、本種の漢名は**頬白山雀**とある。表意文字の面白さ、発音はとも角意味は通じる。本家ホオジロは名前負けしていやしないかと思う程、四十雀は遠目でも大きな純白の頬が目立つ小鳥だ。本種は森林性のホールネスターだが、そう都合よく手頃な樹洞が数ある筈もなく、慢性的な住宅難だ。従って、餌場となる纏まった木立の近くなら何でも利用する。私が知る限り野積みされた鉄管の中、側面に穴が開いたブロック塀、伏せた植木鉢などだ。だから巣箱を掛けてやると利用率は極めて高く、空いているのは余っている物らしい。

さて、孫に命の尊さを教えようと彼らの家の庭に巣箱を掛けた。最近の住宅には巣を掛ける隙間もないから、募集入居者は気の毒なスズメだが、全く使われずに4年経ち私の面目は丸潰れ。理由は分かっていた。出入口の直径をスズメ用としては最小の30mmにしたから、餌に恵まれちょっと太目のこいらのスズメは中に入れない。来春迄にスズメ用最大の40mmに穴を広げると、孫達に伝えておいた。

「小鳥が巣箱から顔を出している」と孫娘が言う。その年最後の海水浴に行こうという8月9日の朝、シジュウカラの親達がくわえた虫を褒美に、ヒナの巣立ちを促しているところだった。そこは新興住宅街だから植栽は貧弱で、最寄りの緑豊かな新津丘陵迄の距離は2kmある。そこ迄毎日餌捕りに通った筈はなく、虫は全て町内で調達したようだ。本種1羽が年間に、卵や幼虫を含めて12万匹の虫を退治すると聞くと、こんな草花に生垣や低木程度の環境で、よく巣立ち迄こぎ着けたものと感心する。あの一家の次なる試練は、ヒナに十分な飛翔力が付くのを待って、小移動の末新津丘陵にたどり着く事だ。スズメにはすまないが、ホームレス寸前のシジュウカラの駆け込み寺にすべく、あの巣箱の穴はそのままにしてある。



酒蔵さんとの長ーいおつきあい

第14話

取締役会長 大辻 英郎

天災と危機管理

昨今地震、水害、土砂崩れ等の自然災害が頻発しております。震災の被害をまともに受けたお蔵の被災状況としては製品の破損、土蔵庫の倒壊、沓石の外れによるタンクの転倒や破損、ビン詰ラインが大きく動く、精米機の破損、そして和釜の耐火煉瓦破損や煙突が折れるなどの被害が目立ちます。土壁づくりの蔵は築後100年以上経過しているものが多く、土台や柱などが腐食し、辛うじて土壁で保っているような状況です。構造上屋根が重く、マグニチュード4~5クラスの揺れでアツという間に崩れてしまう危険性があります。

その点からすれば近代建築は耐震構造に優れていることから、酒蔵としてのイメージを損なわないデザインを考慮した建築を、是非造形大学などで考慮していただきたいものです。また、P箱の3段積みなども崩れる危険性が高いため、この構造についても考える必要があると思います。

タンクの沓石なども大変危険です。2~3度の揺れで外れ、タンクが転倒または傾くなどの被害が報告されています。鋼材で脚を作り、タンクに組み付ける等の手を打たれるのが有効でしょう。(ちなみに弊社のサーマルタンクは脚が4本タンクに組み付けられてるので、マグニチュード7クラスの震度でも転倒せずに済んだという実例があります。)またタンク間を結ぶ作業ステージを鋼材で組むということも作業面の安全性からも、タンクの転倒や横ズレなどを防止するという面からも有効です。今や危機管理は当たり前の世の中となってきました。天災はいつ、どこで起きるか解らない。避けようのないことでも被害を最小限度に留めるための手立てを構ることが必要でしょう。しかし一企業単位では対策を構ることが難しいこともありますので、業界全体の問題として取り組むべきだと考えます。

